

98 第2代総長 田村春吉 — 名大をひきいた人びと⑦ —

たむらはるきち

第2代総長田村春吉は、1883(明治16)年、東京府京橋区(現在は東京都中央区)に生まれました。第一高等学校から東京帝国大学医科大学(のちの医学部)に進み、卒業後も皮膚科教室に残って研究を続けました。

そして1916(大正5)年、愛知県立医学専門学校教諭として名古屋に赴任しました。ヨーロッパ留学後、愛知医専が昇格した愛知医科大学教授、同大学附属医院長、同大学が国に移管された名古屋医科大学教授を歴任、1932(昭和7)年には同大学の学長に就任しました。時にワンマンとも言われた積極的な采配をふるい、政府にもかけあって、大学の施設を充実させていきました。

同時に田村学長は、名医大を基礎として総合大学を創設することに情熱をかたむけました。持ち前の行動力と政治力で、名古屋市の政財界やジャーナリズムにその必要性をうたえました。政財界人が集まったある席で、県知事が博物館を建設する計画を述べると、田村はその場でこれに

反対し、総合大学の必要性を主張して、知事を翻意させたというエピソードも残っています。田村の支援者であった加藤鎌五郎代議士は、あまりの熱心ぶりに当時の田村を「総合大学君」とあだ名していたと回想しています。1939年に名古屋帝国大学が創立されると、医学部長として濹澤総長を支え、農学部や文系学部の設置、東山のキャンパス計画などにも取り組みました。

敗戦後、1946年1月に田村が総長に就任した頃の名帝大は、まさに前途多難でした。空襲で焼失したキャンパスの復興や代替施設の確保、戦時期に建設された粗末な校舎の建て替え、農学部や文系学部の新設、新制大学への移行準備など、一つ一つですら困難な事業を、ほぼ同時に行わなければならなかったのです。これらの多くをなしたとげた田村総長の手腕は、高く評価されるべきだと思います。とくに名大を名実ともに総合大学として確立したことは、長年の本懐をとげたものといえるでしょう。



| | | |
|---|---|---|
| 1 | 3 | 4 |
| 2 | | |

- 1 田村春吉(1883-1949)。担当は皮膚科、泌尿器科などであった。この写真は、名帝大医学部長時代のもの。
- 2 愛知医専の皮膚病学花柳病学臨床講義。左の方に座っているのが、赴任して間もない田村春吉。
- 3 田村模型(名帝大キャンパス構想模型、139.5cm×182cm)。スケールは1/1000だが、高さのみ1/100と高低差が強調されている。田村医学部長が、東山のキャンパス計画を練るために島津製作所に作らせたもの。下方を左右に渡る道が現在の山手通で、左下の青く塗られている部分が鏡ヶ池。ほぼ中央部に見える太い道は当時実際には存在せず、医学部の東山移転後の中央道路として構想されていた。長いプランクをへて5年前に発見され、大学文書資料室によって保存処置が施されたのち、現在は本部1号館の玄関に展示されている。
- 4 卒業生に囲まれ、感謝をうける田村総長(1949年3月)。この2ヵ月後、急な病に倒れ亡くなった。無念にも、新制名古屋大学が誕生する僅か2週間前であった。逝去の直前、勲一等瑞宝章が贈られた。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課(基金推進室)あて(電話052-789-4993, 2011、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp)をお願いいたします。